

東京武道館にて、杖道の試合を観戦した。

1)杖道とは？

杖道とは、一言で表すと身体の表現という言葉が正しいと思う。フィジカル的ハンデはなく、氣勢そして正確さの部分で判定は下されるところが杖道の魅力の一つである。つまり、力が強い方が勝つというわけではなく、決まった形で綺麗に防御し、自分の身を守るといった競技のイメージが強かった。また、観客側としても何と言っても、美しく杖で技を決めた時の間がとにかく素晴らしい。氣勢と共に太刀からの攻撃に対し冷静かつ的確に守備をする部分がまさにその素晴らしさを演出していた。また、外国人選手もおり、日本の文化として杖道を捉えることができると思う。もともと、日本イコール武士や忍者という印象が他国から強く根づいている。そうした背景から、外国人は杖道を知り、その魅力に引き込まれるのではないだろうか。そして、上記でも書いたが、杖道は日本の文化であると強く思ったのは、太刀と棒を使うという部分である。ほかの国では、あまり太刀や棒は戦う際には使うものではない。さらに、日本とほかの国では戦い方が大きく異なる。例えば、フェンシングのスポーツがあるように剣をつく動作で攻撃するというスタイルが身近であるだろう。一方、日本の剣術は頭上から力強く振り切る動作や横から払うスタイルなどフェンシングに比べ身体の手がかりが多いのも特徴である。これは杖道や剣道でも共通するところである。そして、その動きを芸術の観点から見た際、剣を振りかぶる時の足を踏ん張った身体の色が美しいと感じる。しかし、杖道はあくまで寸止めで技をかけるためその身体のラインを長い時間かついろんなパターンで鑑賞することが可能である。そこも、個人的には杖道のもう一つの魅力ではないかと私は思う。今回の杖道というスポーツを始めてみたがこのような魅力を見つけることができ感激した。そして、なんといってもここまで、穏やかであるが、堂々としており、力強さを感じる競技は初めてである。

2) 勝敗はいかに決するか。

試合を見て、まず剣道と近い競技ではないかと言われているが、実際は大きく異なる。剣道は自由に技をかけることができ、技を決めた時に得点になるという形式である。一方、杖道では、決まった形がありそれを演武するというルールが存在する。つまり、自由に演武することはできないのだ。

また、杖道は太刀を持つ側と杖を持つ側に分かれており、「仕」「打」両方の技の優劣を元に判断される。そこでの、判定は、主審1名、副審2名の3名で行われる。技には打つ、突く、払うの3つのパターンがあり、声を上げると同時にこの3つのパターンのうちの1つを演武する。声を上げる時の掛け声としては、気合いを入れるという表現として、大きな声で「エイッ！」という。また、突きを行うときは、「ホッ！」と大きな声を発して、技を決める。そして、判定の基準としては、氣勢の充実度、技と間合いの正確さによって

旗が挙げられる。

3) 決定的スナップショット

